

備後教区報

第 161 号

2017(平成 29) 年 4 月 10 日



結ぶ絆から、広がるご縁へ
-From tying bonds to great encounters-

CONTENTS

- ◇新教務所長挨拶
- ◇宗会議員挨拶
- ◇僕らが覗いた伝灯奉告法要
「AKARI」突撃取材ほか
- ◇クローズアップ「崇興寺土曜学校」
- ◇ルポ「ともしび法座」
- ◇各教区行事報告
- ◇教堂報恩講
- ◇予報・インフォメーション

本願寺境内に本格イタリアン「AKARI」登場！
ミシュラン星獲得シェフに突撃取材！



就任にあたって

菅原順昭 教務所長



平成29年3月15日
付をもって、備後教
区教務所長・本願寺

備後教堂主管を拝命いたしました菅原順昭でございます。前任は長野教区教務所長・本願寺長野別院輪番を約3年間勤めさせていただきました。なにぶん浅学非才の若輩者でありますが、教務所長・主管としての職責を全うすべく、備後教区のさらなる護持発展と、お念仏繁盛のため精一杯勤めさせていただきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

宗門を取り巻く環境を見ますと、少子高齢化・過疎過密・環境等の社会問題、さらには人権・差別、非戦平和等、いのちの尊厳を脅かす問題が山積しております。昨年の『宗報』5月号には、初めてご法話を聞かれた一般の方にご法義が伝わりにくくなっているという厳しい現実が報告されました。このような時であるからこそ、「お念仏が次の世代に伝わるよう」より一層精進しなければならぬと考

えております。

どうか皆さま方の格別のご教導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

退任挨拶

野川大卓 前教務所長



この度、3月15日
付で備後教区教務
所長・備後教堂主

管を退任し、本願寺松本別院輪番を拝命いたしました。備後教区にお世話になって2年間、長いようで短い任期間でありました。2年間の在職中は、多大なご厚情を賜り誠に有難く厚くお礼申し上げます。

とりわけ、「本願寺第二十五代専如ご門主の備後教区ご巡回・備後教堂ご巡拝」は、皆さまのおかげにより務めを果たすことができました。重ねてお礼申し上げます。また備後のお念仏が実感できましたことは、かけがえのない思い出です。備後で得ました経験を踏まえ、新任地で精進いたします。

昨年、十二月に任期満了に伴い宗会議員選挙が行われました。備後教区では山下・助永両議員が再任されました。



山下義円
僧侶宗会議員

2月22日より3月2日まで312回定期宗会が行われました。2日定期宗会が終わった直後に総局が改造されました。私は3月3日付けで、伝灯奉告法要本部長に指名され、6日より常勤しています。法要も詳しく調べてみますと、今までの法要になかった行事が複数動まっています。

その一つが「花灯明」で、本山は長い歴史の中、夜境内に入ることが出来ませんでした。夜6時以降に、境内をライトアップし各場所に花灯籠を置き多くの人が来山していただきました。「長い伝統を何故変えてしまうんだ」と云う意見が宗会でも出ましたが、今まで本山に来てくださったことが無い人達にも是非ご縁を結んでほしいとの願いのもと開催されました。若い人達から「初めて本願寺さんに参らせていただきました」と大変好評でした。今までご縁の無かった人達に少しでもご縁作りをする云う試みが淡々とはじまっています。



助永一男
門徒宗会議員

伝灯奉告法要の最中、2期目の宗会議員としてスタートし、2期目の中央寺院振興対策委員を委嘱されました。その中で過疎対応支援員の増員等が急がれます。第312回定期宗会では、「伝灯奉告法要から未来に向けて『念仏者の生き方』に学び、行動する」を宗務の基本方針として議決されました。特に注力するものとして6項目を上げています。

- ・つなげる
- ① 子ども・若者へのご縁づくり
- ② 過疎地域をはじめとする寺院等への振興支援
- ・つたえる
- ③ 僧侶・布教使・坊守の研修の充実
- ④ 念仏者の生活実践の展開
- ・ささえる
- ⑤ 運営体制の強化と築地本願寺への支援
- ⑥ 宗門として取り組むべき諸課題の学びと対応

この宗務の基本方針に沿って、皆様のお役にたてますよう、精一杯勤めてまいります。

僕たちが覗いた伝灯奉告法要 ～本願寺・新たなる挑戦～

西本願寺では、2017(平成29)年3月7日よりいよいよ第二十五代専如ご門主伝灯奉告法要(後期日程)が再開された。昨年某日、教区報編集委員が京都に向かったのは、法要の側面、裏面にスポットを当て、取材を敢行。ここに、改めてその意義を問う内容をレポートさせていただく。(取材
|| 松井一昭委員、山下瑞田委員)

突撃取材①

本願寺おてらかふえ&まるしえ「AKARI」



唐渡 秦 シェフ 1963年鳥取生まれ。数々の名店、ホテルで修業後2006年大阪・心斎橋に「フレンチレス・レストラン「ユミエール」を開業。一年目に「ザガットサーベイ」でトップランキングを獲得。現在レストラン4店舗、ティーサロン2店舗、伊豆にオーベルジュを展開。「ミシユランガイド関西」では8年連続星を獲得。



白洲境内に足を踏み入れて、まず目を引くのが御影堂左側の白いブース「AKARI」だ。内部はカフェ(レストラン)とマルシェ(京名産品販売)に分かれる。個々の詳細は、「本願寺おてらかふえ」で検索いただくとして、我々は、取材に際し、まずは腹ごしらえと、カフェでベジタブルカレーを食しつつ、リーフレットに目を通す。すると、山下「何かこのシェフ、凄いつすね。ミシユラン星獲得ですって」「ホンマやな。このカレー、ちよつとお洒落なフレンチ料理やもんな」と、松井。「でも、こういうのってアレでしょ？」

有名シェフは監修だけで、ここには居てへん…みたいな」「まあ、せやな。でも、折角やし、あそこの女性スタッフに取材させてもらおか？」と、向かった先のカウンターで、その旨告げると、なんと！オーナーシェフ、唐渡泰氏が快く取材に応じて下さった。

唐渡シェフは、まるでドラマの俳優ばりのダンディーなイケメン。少々、気後れしながらお話を聞きすると、数々の名店、ホテルで修行後、2006年大阪心斎



内装はとても開放的で明るい。テーブル席を取り囲むように、商店が並んでいる。

橋にフレンチレストラン「LUMIERE(リュミエール)」をOPEN。以来、かの有名な「ミシュランガイド」で8年連続星の評価を得る名店に成長。特に、「野菜の美食」を追求しつつ、現在レストラン4店舗、ティーサロン2店舗などを展開中。

そんな凄い人なのに、とっても気さくに「どうぞ、どうぞ」とばかりに我々素人記者を招き入れ、普段は決して見ることに無い、厨房をも案内して頂いた。まず、驚いたのは調理台まわりにとろろ狭しと積まれた野菜類。色とりどりで、見たことも無いものもある。



▲白黒だと分かりにくいですが鮮やかな色をした京野菜

「そういえば、シェフはとにかく、野菜にこだわりをお持ちだとか?」「そうです。皆さんご存じの様に、ここは京野菜の本場ですから、毎朝、足を運んで仕入れていきます」「えっ?野菜って、契約農家さんが定期的に運んで来るのと違うんですか?」「いいえ、本

当に良いものは自分で見て選ぶんです。それに京都の農家さんは、信頼関係を築いてからでないかと取引さえしないって方も多いから:」多忙なシェフが自らの足で、目で、舌で選んだ野菜を調理する。これを聞いただけでも、唐渡シェフの人柄とその料理の人気の理由がうなずける。

また、マルシェ・エリアでは様々な京のお土産品が並ぶ。あの俳優



▶「自分の目と舌で厳選した食材です」

▶店内はどれもキレイであるが、調理場は常に清潔に保ち整理整頓されていた



佐々木蔵之介さんのご実家、佐々木酒造も出店。かなりの人気だとか。「AKARI」内では、ここが境内地と忘れるほどの雰囲気とにぎわい。ぜひ、お出かけの折には立ち寄ってみてはいかが?只、夢中になって、くれぐれも法要開始時刻をお忘れなく。

▼突然の取材にも関わらずスタッフ一同とても丁寧に対応してくださった。感謝感謝。



◀デザート類も豊富だ。気軽に口にできるソフトクリームも人気のデザート。



突撃取材②法要責任者に聞く

法要にあふれるチャレンジスピリット



▲北境内地の駐車場では参拝のバスが発進する度に
職員やスタッフがメッセージボードを掲げお見送りしている

さて、「AKARI」を後にした我々は、山下の人脉(?)を頼って、法要責任者の方々にお話を伺うことが出来た。とりわけ、今回中心になってお話をいただいたのは、弘中貴之現副総務(子ども・若者ご縁づくり推進室・室長)と、同、榮俊英部長。中でも印象的だったのは、此度の法要が大変に「挑戦」「変革」の意味合いを持つものであるということだった。

前述の「AKARI」もそうだが、阿弥陀堂、御影堂、さらに飛雲閣の夜間拝観に踏み切った。前期10月開催時は、それぞれが阿弥陀経中にあるが如く、青、黄、赤、白にライトアップされ、大いに話題を呼び、好評を得たのは記憶に新しい。しかし、実は本願寺初の試みに、当初は疑問、反対の声も多かったそう。しかし、この法要を機に「今までご縁の無かった人へ関心を持ってもらいたい」という思いがこのたびのチャレンジとなったのではないだろうか？

また「子ども・若者たちへの呼びかけ」に重点を置いていることにも注目してもらいたい。既に法要参拝された人のお気づきだったろうか？法要後、大谷宗家の方々とのおふれあいの場で、幾人かの園児が花束を贈らせていただく姿。その花束…実は生花ではなく、園児ら手作りの紙花であることを。それはもちろん指導のもとではあるが、自分たちで作り、予行演習の後、お手渡しする子どもらの微笑ましい姿。中には、かなりの緊張ぶりの子も。そこには、「伝えあうことが大切」と、仰られた新ご門主のお言葉に通ずるものがある。

「日本の自死率は減少傾向にあるが、若年層の自死率は90年代以降上昇傾向にあります。宗門も、そういった青年層へのアプローチ方法を必死で模索しています。阿弥陀仏の誓願のところが、私達ひとりひとりに届けられていることを、しっかりと伝えていかねばなりません。ご縁づくりとは次世代の宗門の在り方を問う『挑戦』の意味合いを持つものであると思います」と、締めくくられた。

突撃取材③縁の下の力持ち 救護スタッフの存在とご苦勞を聞く



最後になったが、上原大信警備救護部担当者のお話を紹介したい。

「皆さんご承知の様に、救護の仕事は決して表舞台で活躍するものではありません。しかし、目立たなくても必要かつ重要な位置づけであると認識して、取り組んでいます。当たり前ですが、法要には多くの陰の力が在ります。表裏一体となって勤修される今法要に一人でも多くのかたに安心安全をお届けしたいと、スタッフ一同願っております。また、上原さんによれば、気温が上がれば体調不良、下がれば怪我…というのが、救護スタッフの共通認識だそうです。つまり、暑い時は脱水状態等で具合が悪くなり、寒くなれば、筋肉等がこわばり、転倒のリスクが高まるというわけだ。今後の法要参拝の方々は、それを踏まえてくれぐれも留意のほどを。



▶しっかりとしたベッドも完備している。

◀NPO法人 JIPPO (ジッポウ)

「全ての存在と営みはお互いに関係しあい支え合っている」という仏教の基本理念に則り発足。浄土真宗本願寺派を基盤とした組織。平和・貧困・環境・復興などを問題とし多方面で活動している。期間中、北境内地の店舗にてフェアトレード商品^{注1}などを販売。スリランカの「ウバ紅茶」や東ティモールの「カフェ・ティモール(コーヒー)」など、普段なかなか購入する機会がないものばかりである。是非、購入して頂きたい。

法要期間中、北境内地にさまざまな店舗が並んでいる



注1 発展途上国でつくられた製品を適正な価格で継続的に取引すること。





深津組崇興寺(枝廣慶樹住職)の崇興寺土曜学校は平成26年より始まり今年で3年目となる。元々は平成9年に亡くなった枝廣昭見前住職が始めたものであったが、病気が発覚して以来休止状態となり20年近く経っていたものを、枝廣慶樹現住職が復活させたものである。月に1度第3土曜日の開校と決まっており、現在30名近くの小学生が毎月通っている。(文責・教区報編集委員)

朝7時に始まり朝食と一緒に

崇興寺土曜学校の特徴的な点は、朝7時から始まり朝食を共にするところである。「他の行事と重なることが少ない時間帯なので、参加しやすい時間だと思っています」とのこと。崇興寺土曜学校は7時から9時半までの2時間半の行事であるが、確かにこの時間であれば他の習い事等とは重なりにくく、参加しやすいのかもしれない。「朝早くから開校し朝食を用意する」という発想は他の寺院で行われている土曜・日曜学校には聞かないものである。

では具体的に、崇興寺土曜学校は毎月どのような内容なのか伺っ

てみたい。まず、朝6時頃には本堂の明りが灯り施錠が開けられる。早い子は6時過ぎから本堂に来る。

ゲーム持ちこみOK

崇興寺ではゲームや漫画などの持ちこみが自由となっている。で、携帯ゲームなどを本堂に持ち寄って遊んだり、漫画を読んでいる子もいる。「最近のゲームは任天堂DSなど通信対戦ができません。友達が集まる場所ではみんな通信したがりですよ。なかなか自宅では許されないことも多いと思いますから、うちのお寺では全てOKにしています。土曜学校の時間が余った自由時間などでもゲームをしている子もいますね」と枝廣住職は言う。お寺ではゲーム類の持ち込み禁止ということも多いように思うが、崇興寺では子ども達の自主性に任せているようだ。

参加費は百円＋お米一合

お堂に上がった子どもたちはまず参加費の百円とお米1合を尊前にお供えし、お焼香を行なう。お焼香の作法は初回に住職に習い、



▲仏一キ(ホットケーキ)作りなども



▲みんなで食べる朝ごはんは美味しい



◀お勤めの後の阿弥陀様クイズ

2回目以降は各々が教え合って行なっている。

お勤めの後に「阿弥陀様クイズ」

開講時間になると全員がお経本とお念珠を持ち並んで正座をして座る。全員で『らいはいのうた』をお勤めした後に、「阿弥陀様クイズ」という、浄土真宗のことに関するオリジナルクイズを住職が出す。「法話は子ども達には退屈かなあと、思ってたクイズにしています。子どもたちは素直ですから、阿弥陀様のことをそのままクイズにしています。子ども達は答えをちゃんと覚えていて、親御さんにそのままクイズを出したりするようですよ。」と枝廣住職は語る。

その後は掃除だ。本堂内の畳みを雑巾で拭きをし、それが終わるとその雑巾を濡らして絞り、本堂の縁を拭く。枝廣住職曰く、子ども達は掃除が一番嫌いで、次に嫌いなのが阿弥陀様クイズのようだ。

朝食は「白米」「味噌汁」「漬物」「納豆」と決まっている。坊守と前坊守が前日から仕込み、当日器に盛るところまで準備しておく。全員が机についたところで合掌し

『食前のことば』を全員で唱和する。『食前・食後のことば』は最初から最後まで全員で唱和するのが崇興寺土曜学校の習わしのようだ。

朝食を終えた8時過ぎ頃から、毎月違う授業がある。特に決まったものではなく、「絵」「習字」「工作」「調理実習」「芋掘り」などその時々でお寺が用意している。授業の最後に本堂で恩徳讃を歌い土曜学校は終わる。その後、各々が持ちよったお経本に日付とスタンプを押し、駄菓子を一人一つプレゼントして終わる。

毎月30名近くの子ども達が集まる土曜学校は全国的にもそうそうないのではないかと、そこにはやはり住職の工夫が見てとれた。開始時間を早め朝食を出すアイデアは、習い事と重ならないことはもちろん子どもを通わす家族にしてみればとても助かる内容のように思う。9時半に終わるのはその後の法事の為。体力的にかなりしんどそうだが、若い住職ならではのことかもしれない。崇興寺の土曜学校を一つの起案とし、各々の寺院の子ども会で役立てて頂きたいと願っている。

▼赤と青の下敷きで作ったメガネ

特に印象に残っている土曜学校の授業は何かありますか？

枝廣住職が印象に残っている過去に盛り上がった授業の一つを紹介してもらった。それは「赤青3Dメガネ工作&3D映像視聴会」だ。まず向こう側が見える程度色が透けている赤色・青色の下敷きをそれぞれ用意する。それぞれを長方形に切り取りテープで貼り付けメガネ型に形成する。最後に輪ゴムと紐を付けて完成。昔、遊園地や子ども用の付録などでも見た事があるはずだ。気になる方は「アナグリフ」で検索すれば詳しくわかるはず。子ども達全員が3Dメガネを作ったら、本堂のスクリーンでアナグリフ

動画を見る。これもネットの動画配信サイトに無料でたくさんあるので、スマートフォンがあれば視聴可能とのこと。これは試してみる価値ありかもしれない。



赤青3Dメガネ製作&3D映像視聴会



▲作った3Dメガネをかけてみんなで飛び出す映像を視聴「うー！」と叫ぶ子もいて大盛り上がりでした



▲三原市大和町にある明讃寺全景

ルポ

備後教区寺院振興対策委員会では、住職不在により法座開催が困難になっている寺院に、教区布教団員が出講し、その地域門信徒のご法義相続と寺院機能の振興を図ることを目的とする「ともしび法座」を実施することを決定した。すでに実施されたお寺取材し、「ともしび法座」の概要を報告する。(文責・教区報編集委員)

「ともしび法座」の取り組み

昨年の11月8日、「ともしび法座」開催申請により、世羅組明讃寺(栗原一乗代務住職)の報恩講法要が勤修された。

明讃寺は門徒がなく、地域の方々(他のお寺の門徒)が世話役を引き受け寺院活動が続けられてきた。以前は教区の仏教婦人会にも登録していたが、過疎高齢化により退会した。

長年、高齢になる坊守(昨年12月に往生)一人で寺院運営がなさ

れていたが、身体の衰弱により入院を余儀なくされた。後継者はなく、本堂・庫裡は老朽化し、維持することは困難であると判断し、寺院解散することが決定されるとき坊守は、「永代経法要と報恩講法要だけは何とか続けてほしい」と代務住職、地域の方に懇願された。法務による収入がない状況で、法座活動を持続することは厳しく、今回の「ともしび法座」による救援策は、地域の方々からも喜ばれている。

栗原代務住職は「本堂が解体されても、集会所で法座活動が続けていきたい。これから支援を必要とする寺院は増えていくであろう。ご法義相続と寺院機能振興のための支援策は大切であるが、一方、解散手続きのための事務は煩雑であるため、事務手続きの簡素化も支援策として考えてほしい」と語る。

手続きの流れ

法座の日程を決めて
組長に連絡



組長は「ともしび法座」開催申請書を1ヶ月前までに教務所に提出



教区は講師に出講依頼などの手続きをし連絡する。



法座開催



2週間以内に報告書提出(寺院又は組長、講師)

- ・対象は住職不在により法座開催が困難になっている寺院
- ・助成金
本山より3万円
教区より2万円
- ・申請は年2回までとする。
- ・法座は原則として1日とする
- ・講師は備後教区布教団が決定する



▲昨年の報恩講法要

News & 活動情報



浄土真宗本願寺派
厚生保護事業協会主催
「第五回全国保護司研修」

に参加しました。

2月1日(水)2日(木)、東京の築地本願寺を会場にして標記研修会が開催され、全国から約82名の保護司が参加しました。(備後からは季平顯道、河村公昭、田坂健爾、小林章三、小島照行、水戸浩文の六名)一日目は法務省更生保護振興課長の稲葉保氏が「更生保護の現状と課題」と題して講演され、三年後の東京オリンピックを成功させるためには、「世界一安全な国、日本の構築が不可欠であり、犯罪や非行をした者を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる社会にする」必要を説かれ、保護司への期待を述べられました。二日目は、明治28年に建てられ映画のロケにもよくなる赤レンガの法務省旧本館と警視庁を見学し、大変有意義な二日間の研修でした。(記事・水戸浩文備後教区保護司会委員長)

ご縁づくりサポーター連絡協議会

【子ども・若者ご縁づくり】2月28日(火)午後よりご縁づくりサポーター連絡協議会を開催した。平成26年度4月、宗派に「子ども・若者ご縁づくり推進室」が設置され、本年度より教区に於いても「子ども・若者ご縁づくり推進委員会」を設置し、教区マネージャー10名、各組サポーター32名の新たな体制にてスタートした。

今回の連絡協議会では、藤間幹夫マネージャーよりご縁づくり推進体制についてお話しいただいた後、各組の活動状況を報告、研修として枝廣慶樹マネージャーよりSNS等、外部への情報発信の手段としてフェイスブック活用についてお話しいただいた。



◀「キッズサンガ」と「子ども・若者ご縁づくり」の位置づけや、歴史的背景を明確に説明する、藤間マネージャー。

▶自身のスマートフォンで仮想寺院のフェイスブックページを作成する様子を実演紹介する枝廣マネージャー。たった数分で寺院のページが作れてしまうのは驚きである。



平成28年度 僧侶研修会開催



僧侶研修会開催

2月24日備後教区僧侶研修会が、御調束組照源寺(久本晃道住職)を会所に開催された。今年度は、本願寺勸学龍谷大学教授 深川宣暢和上をお迎えし、「浄土真宗という仏教と伝道」という、テーマに沿ってご講義いただいた。

午前中は、まず「伝灯奉告法要についてのご消息」を紐解かれ、「聞信」「伝道」についてお示し下さった。

その後、宗教の起源から世界宗教、そして仏教の特色についてのお話があり、午後からは、仏教に焦点を絞ってさらに踏み込んだ講義。小乗と大乘、自力と他力の比較論に端を発し、浄土真宗は「横超」の教えであると明示された。

当日は、好天にも恵まれ、86名が参加。流れる様なご講義に、日頃の疑問点が整理され、僧籍を持つ身として、お法りを自ら聴聞し続けようとの決意を新たにされた。また、和上ご自身の青年期のお話：野球部での活

動を終えても、直ぐにはご法義を頂く決心が付きかねたと。また、八万四千の法門と聞いて驚き、『正信偈』中の「如来所以興出世」「唯説弥陀本願海」のお言葉に触れ、浄土真宗を学ぶ決意をされたエピソード等には、聴衆共感しつつも和上のご苦勞が偲ばれた。

なお、昨年に引き続き、会所をご快諾いただいた照源寺様に於いては、本堂荘嚴のみならず、涅槃像の拝観等許可頂き、中でも内陣仏華の見事さは、特筆に値した。併せてお礼を述べる次第である。



▶快く会所を受けて下った
久本晃道照源寺住職

後期勤式研修会

【勤式】2月2日(木)午後より本願寺備後教堂にて後期勤式研修会を開催した。真宗大谷派宗務所にてご門主の装束衣紋を担当される山口昭彦先生をお招きし、「法衣装束の故実と作法」をテーマに講義いただいた。真宗における法衣の歴史を学ぶなか、東西本願寺の現在の法衣の違いについて実際にモデルを立て着装する中で学びを深めた。普段なかなか目にするのではない大谷派の装束に参加者一同興味津々であった。



▶山口昭彦先生より指導を受ける

青年布教大会

【布教団】12月4日、教区布教団では、青年布教使(45歳未満及び任用5年以内の布教使)による青年布教大会を鴨川北組照専寺(佐々木弘海住職)にて開催した。

この布教大会は、平成19年(教堂開催)に始まり、今回で10回目を迎える。会所は教区内寺院から選定され、各寺の門信徒が参拝。若い布教使の育成を目指して行っている。

出講者は次の通り。枝廣大智(深津組崇興寺)、那須智雄(沼隈西組大東坊)、竹政信至(鴨川組正覚寺)、佐藤知水(中組光栄寺)、島津恵航(世羅組正満寺)、北山祐章(副団長 沼隈南組光源寺)

四州教区との合同研修会

【布教団】12月6日本年度青年布教使の活動の一環として、備後教区と四州教区青年布教使が合同研修会を本願寺塩屋別院にて開催。四州教区が主催する「合同聞法のつどい」へ四州教区から2名、備後教区から1名(川上順之 神石組法泉寺)が出講し、講評を行った。その後、両教区青年布教使が親睦会を行い、参加した布教使からは今後も互いの研鑽を深めるため、合同研修の継続を熱望する声があった。

日本仏教の可能性を学ぶ

【布教団】2月27日、午前中の実践運動研修会では、福岡真也・三谿組照善坊住職より「子どもたちに何をどう伝えるか?」について講義いただき、若年層への布教の視点やプトラハンドブックの活用について触れられた。布教使が先頭に立ち、今からの世代の若者にどうご縁をひろげていくことができるかが今後の課題である。

午後の部門別研修会では、ケネス田中武蔵野大学教授が「伸びるアメリカ仏教の現状と原因」浄土真宗へのメッセージ」と題して講義を行った。異文化であるアメリカにおいて、年々浸透しつつある仏教。その要因と日本仏教の可



▲ケネス田中先生

能性について触れ、今後の伝道の姿勢について考えさせられるものであった。

また、臨時総会では事業計画及び予算の審議がなされ、議決された。特に青年布教使にとっては次年度備後教区引受による連区青年布教使研修会に向けての準備が必要となる。

賦課基準等調整委員会全体会

【賦課基準委】2月9日賦課基準等調整委員会(田坂潤委員長)では、4年に1度の賦課基準調整が4期目を迎える今期、門徒戸数の報告依頼について全体協議し、実施した。今後、同委員会では教区費の算出基準等の協議が行われる見込みで、新たな基準が施行されるのは平成30年度の予定である。

平成28年度定期教区会

【教区会】3月7日この度12月開催の臨時教区会に引き続き、定期教区会(常光和信教区会議長)が開催された。議案は、平成29年度教区各種会計予算案について審議され、原案通り議決された。質疑では、本年度より就任された議

員からの質問や意見などが数点あり、教区会計の今後の見通しについて検討して行く必要性が問われた。教区会は3月末をもって任期1年目を終了するため、引き続き懇親の場が持たれた。

自死を考える学習会

【同朋社会部会】3月1日、自死によって家族を失った遺族の人達が集まって苦しみをかち合う自助グループの発足を目的とした、自死を考える学習会が開催された。

講師の明英彦さん(自死遺族とうきよう自助グループ「みずべの集い」共同代表)もまた、自死により一人娘を亡くした自死遺族の一人であり、自死遺族の集いとの出会いから「みずべの集い」の結成、現在に至るまでの活動や、自死遺族が抱える複雑な心情について語られた。学習会の最後に、備後教区内における自助グループの発足が提起され、「自死遺族の会・びんご」が誕生した。

同朋講座

【同朋社会部会】3月17日備後教堂にて、同朋講座が開催され

た。東日本大震災以来、災害が起こる度にボランティア活動を申し出る声が増えた一方で、臨床宗教師をはじめとする被災者の不安を取り除く事を目的とした「心のケア」を行う人々の動きが活発化していった。それらの実態と隆盛に至るまでの歴史的背景について、関西学院大学の教授等を務めた野田正彰先生が講義を行った。

先生は「『精神的外傷』のような『心は傷付くもの』という見方はベトナム戦争時にアメリカが兵士の心を安定させるため発達した精神医学の流れを汲むものであり、これに基づいて行なわれる臨床宗教師による心のケアは被災者に対して適切な処置ではない」と指摘された。

仏教教養講座

【備龍会】2月13日備後教堂にて、備龍会主催による同講座に僧侶、門徒を問わず約50人の参加者が訪れた。昨年に続き、大阪誓覚寺宮部誓雅布教使による、プロジェクターを駆使したユニークな「御絵伝解説」に、参加者から「分かり易い」「さらに、ご開山に親しみを感じられた。」等の声が上が

り、好評であった。また、同会主催行事としては、今春より「やさしく学ぶ浄土真宗」(全4回)が、開講予定。

連研履修者の集い

【門信徒部会】2月17日備後教堂にて、平成28年度教区連研履修者の集いが開かれた。今回は、「連研を受講して思うこと」というテーマのもと、先年教区各組連研を終了し、本願寺中央教修へ参加された、佐藤一人さん(第243回修了御調東組法光寺)、杉原静子さん(第251回修了沼隈西組万福寺)のお話を伺った。

あいにくの雨模様の中、約40人の参加者がお二人の体験談に聞き入った。また、苅屋光影連研講師には、「門信徒会運動の歴史」と「話し合い法座の意義」についてお話をいただき、さらに「現代のお寺を取り巻く状況」：過疎化の二面性(地方Ⅱ人口数減、都市部Ⅱ参拝者数減)を示された。その後、3班に分かれて、話し合いが持たれ、有意義な1日となった。

教区行事報告

27日	26日	25日	24日	23日	19日	17日	11日	1月	22日	19日	16日	15日	14日	11日	8日	7日	6日	4日	12月																					
各種専門委員会合同会議	広報伝道部会	布教団役員会	仏婦連だより取材	災害対策委員会	蓮の実編集委員会	門推世話人会	勤式練習会	おつとめ教室	同朋社会部会	少年連盟役員会	ご縁づくり推進委員会	委員会常任委員会	教区賦課基準等調整	教堂常例法座	組長会	布教団副団長会議	ビハークラ備後役員会	寺婦役員会	臨時教区会	教堂常例法座	門信徒部会	広報伝道部会	教堂常例法座	臨時教区会	寺婦役員会	ビハークラ備後役員会	組長会	布教団副団長会議	1月	22日	19日	16日	15日	14日	11日	8日	7日	6日	4日	12月
																					（ 鴨川北組 照専寺）										布教団青年布教使大会									
																					青年布教使研修会（四州教										区青年布教使との交流会）									

第15回真宗講座

2月	2日	8日	9日	11日	15日	16日	17日	21日	22日	23日	24日	27日	28日	3月	1日	6日	7日	8日	10日	11日	13日						
	後期勤式研修会	おつとめ教室	勤式練習会	賦課基準等調整委員会全体会	実践運動常任委員会	教堂常例法座	F M専門委員会	仏婦役員会	連研履修者のつどい	門推連の実編集会議	常備会	同朋三者懇話会	僧侶研修会	(御調東組照源寺)	布教団臨時総会	研修会	子ども・若者ご縁づくり	サポーター連絡協議会	自死を考える研修会	教区報専門委員会	定期教区会	おつとめ教室	勤式練習会	ビハーラ役員会	教堂常例法座	仏壮役員会	教堂参与幹事会

聞法会

14日	17日	22日	22日	24日	27日	29日	30日	4月	4日	6日	9日	13日	21日	教区行事予定				5月	1日	18日	23日	26日	6月	5日	8日
少年連盟ウォークラリー現地会議	同朋講座	寺院振興対策委員会 組長会	ハンセン病現地学習会	得度習礼講習会	第12回少年連盟こども大会 ウォークラリー	(御調東組浄泉寺) 教堂責役総代会	同朋社会部会	同朋三者懇の歩みに学ぶ基礎講座	おつとめ教室 勤式練習会	教区報委員会	更生保護事業協会小理事会	仏壮総会・研修会	仏婦総会・研修会	寺婦若婦研修会					実践運動全体会・総会	寺婦役員会	おつとめ教室勤式練習会	ビハークラ役員会	同朋三者懇話会	寺婦総会・研修会	

教区行事予定

各法人の県庁への書類提出期限は7月31日です。

広島県の寺院 (電話 082-228-2111)

〒730-0011 広島市中区基町 10-52
広島県庁内 環境県民局 学事課

岡山県の寺院 (電話 086-224-2111)

〒700-8570 岡山市北区内山下 2-4-6
岡山県庁内 総務部 総務学事課

未提出の場合、10万円以下の過料処罰金が発生します。お忘れなきようご留意下さい。

毎月11日 教堂常例法座

14日	20日	21日	23日	26日	29日
おつとめ教室 勤式練習会	布教団総会・研修会	布教団夏期布教大会	ビハークラ総会・公開講座	少年連盟中四国ブロック指導者研修会(備後担当)	連区布教使研修会



得度許可

おめでとう
ございます

〔敬称略〕

備中里組 教善寺

池上絹江(釋大誓)

(平成28年12月15日付)

芦田組 西福寺

宮本克己(釋灯炬)

(平成28年12月15日付)

三次組 福泉坊

水戸淳子(釋淳心)

(平成28年12月15日付)

世羅組 西教寺

近藤 勉(釋仁賢)

(平成28年12月15日付)

敬 弔

お悔やみ申し
上げます

〔敬称略〕

三次組専正寺 衆徒

深水一味 (11月30日寂)

世羅組明讃寺 前坊守

西明地徹恵 (12月1日寂)

御調西組 浄念寺 前住職

渡邊龍司 (12月1日寂)

世羅組 興學寺 前住職

覺王地光代 (12月13日寂)

世羅組 浄鏡寺 前住職

太秦法昭 (12月17日寂)

三次組 浄念寺 住職

泰増嗣博 (12月20日寂)

沼隈西組 大東坊 前坊守

那須弘子 (1月8日寂)

沼隈西組 常泉寺 前住職

中江恵海 (1月20日寂)

沼隈西組 萬福寺 衆徒

久本仁子 (2月7日寂)

御調東組 無量寺 坊守

深水信子 (3月26日寂)

御調西組 梅林寺 前坊守

高橋智子 (3月31日寂)

香典返礼 ありがとうございます

世羅組 法泉坊 様

御調東組 福善寺 様

より香典返礼をお預かりしました。



常例法座案内

出講者(敬称略)

4月 是山宗憲

世羅町真行寺

「白道を行く」

5月 北山祐章

福山市光源寺

〔定聚の数に入ることを見逃す〕

6月 苅屋光影

福山市光行寺

「私を仏に成す道」

7月 田坂英尊

府中市慶照寺

「お慈悲の中に」

8月 枝廣慶樹

福山市崇興寺

「浄土真宗でよかった」

9月 竹政信至

福山市正覚寺

「み仏にいだかれて」



この度、初
めて教区報全
体のレイアウ

トまたいくつかの記事を担当することになった。いつも自坊にて出来あがった教区報を何気なく拝見していた私であったが、この一冊を作りあげることには、どの苦労、時間、工夫が重ねられているか、その一端が分かったような気がする。▲浄土真宗は一言で言うならば、他力の宗教であると言える。阿弥陀如来が何をしてくださったかを知らされ、そのはたき信順するのが私の信仰生活である。御苦労の全ては阿弥陀如来の側にあり、私はただその恩恵を受けるだけである。恩恵は受けているだけでは本当の良さが分からないものだ。そこに至るまでの過程を聞かされることで、真に尊いことであったと喜ばせて頂けるのである。▲私はただ届いた教区報を眺めて楽しんでいただけであったが、こうして教区報委員としてこの冊子に関わることになり、その裏に諸先輩方の御苦労の姿があったと思うと、もったいないことであったと頭が下がるばかりである。

(Y・E)

平成28年 教堂報恩講

【僧侶褒賞受賞者】

《住職在職30年》

備中里 大圓寺 奥村俊道
 芦田 西教寺 長 專修
 三次 法泉寺 高野陽晃
 三次 福泉坊 水戸浩文
 三次 照林坊 明山晃映
 御調東 円龍寺 池上走珠

《住職在職50年》

中 香積寺 福島紀昭

《90歳 僧侶》

芦田 明浄寺 立神啓道
 三次 光西寺 長田ツル工
 御調東 法光寺 季平博道
 世羅 善正寺 薬師寺容子



去る11月30日(水)、本願寺備後教堂報恩講法要が教区内関係者の協力のもと、135名の参拝者とともに聖人の御遺徳を偲びつつ勤修された。

日中法要では、現在本山での伝灯奉告法要にて依用されている「奉讃伝灯作法」を、逮夜法要は「広文類作法」をお勤めした。法要には若手有志、鴨川組・鴨川北組・神石組の法中に出勤いただいた。

講師に野瀬善隆・滋賀教区彦根組清徳寺住職をお招きし、講題「むなしくすぐることぞなし」にてお取り次ぎいただいた。そのほか僧侶褒賞の授与式、昼休憩にはボーモリーズによるコーラスが行なわれた。

ウォークラリー IN 尾道

3月27日(月)、第12回備後教区少年連盟子ども大会ウォークラリーを御調東組浄泉寺並びに尾道市内を会場に開催した。
 午後からあいにくの雨模様となつてしまつたが、ロープウェイで千光寺公園に登るなど、瀬戸内海の景色を楽しみながら元氣よくコースを歩いた。



▲尾道ならではの景観を楽しむ



▲会所を受けて下さった遊亀山真照浄泉寺住職のご挨拶



▲ユーモアを交えて挨拶をする脇本寿真備後教区少年連盟委員長

▼会所の浄泉寺にて出発前に集合写真を撮りました



〈参加者〉 268名 (内引率者 52名)
 〈優勝〉 御調東組照善寺どんぶらごっこチーム

『教区報』の編集にあたり、皆様のご意見やご感想、情報の提供をお待ちしています。教区報専門委員会まで、「一報ください」。

faxTEL (084) 924-5759
 (084) 931-9636